

みずほCustomer Desk Report 2020/01/20号(As of 2020/01/17)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.33
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	110.18	1.1137	122.71	1.3075	0.6898
SYD-NY High	110.30	1.1142	122.83	1.3120	0.6911
SYD-NY Low	110.05	1.1086	122.14	1.3007	0.6871
NY 5:00 PM	110.15	1.1090	122.17	1.3007	0.6874
NY DOW	29,348.10	50.46	日本2年債	-0.130	0.00bp
NASDAQ	9,388.94	31.81	日本10年債	0.000	▲1.00bp
S&P	3,329.62	12.81	米国2年債	1.5644	▲0.04bp
日経平均	24041.26	108.13	米国5年債	1.6220	▲0.19bp
TOPIX	1735.44	6.72	米国10年債	1.8241	1.59bp
シゴ日経先物	24,050.00	▲15.00	独10年債	-0.2170	0.20bp
ロンドンFT	7,674.56	64.75	英10年債	0.6300	▲1.25bp
DAX	13,526.13	96.70	豪10年債	1.1830	0.50bp
ハンセン指数	29,056.42	173.38	USDJPY 1M Vol	4.23	▲0.15%
上海総合	3,075.50	1.41	USDJPY 3M Vol	4.85	▲0.13%
NY金	1,560.30	9.80	USDJPY 6M Vol	5.26	▲0.10%
WTI	58.58	0.05	USDJPY 1M 25RR	-0.68	Yen Call Over
CRB指数	182.89	0.64	EURJPY 3M Vol	5.42	▲0.11%
ドルインデックス	97.61	0.29	EURJPY 6M Vol	5.83	0.06%

【昨日の指標等】

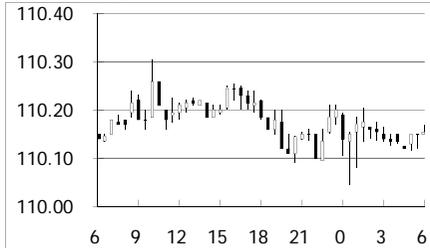
Date	Time	Event	結果	予想
1月17日	11:00	中 鉱工業生産/小売売上高/GDP(前年比)	12月 6.9%/8%/6.0%	5.9%/7.9%/6.0%
	18:30	英 小売売上高(除く自動車燃料・前月比/前年比)	12月 -0.8%/0.7%	0.8%/3%
	19:00	欧 CPI(前月比/前年比)	12月 1.3%/0.3%	1.3%/0.3%
	22:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	12月 1608k/1416k	1380k/1460k

【本日の予定】

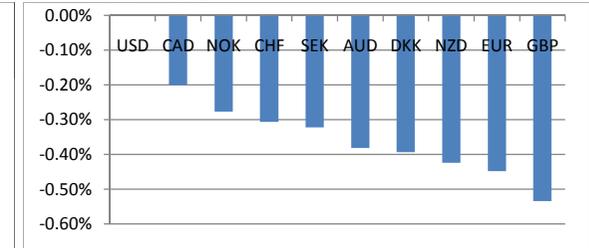
Date	Time	Event	予想	前回
1月20日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・速報	11月 -	-0.9%/-8.1%
	16:00	独 PPI(前月比/前年比)	12月 0.1%/-0.3%	0%/-0.7%

東京	東京時間のドル円は110.18レベルでオープン。前日の米株高が牽引して日経平均株価が昨年来高値を更新し、ドル円も仲値にかけて109.30まで上昇して年初来高値を更新。しかし一段の上昇には手がかり不足であったことからすぐに値を戻し、その後は110.20近辺の狭いレンジでの推移。結局110.25レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場ドル円は新規材料難から小動きとなった。110.25レベルでオープン。アジア時間の流れを受け小幅ながらも110円台前半で堅調推移。110.10レベルでニューヨークへ渡った。ポンドは景気先行懸念から売られた。1.3075レベルでオープン。12月英小売売上高の発表前に好調な売り上げを期待し1.3120まで買われた。しかし、結果は前月比で▲0.8%と予想に反しクリスマス商戦が不調であったことが確認され1.3027まで下落した。その後は1.3050レベルまで若干値を戻しニューヨークへ渡った。(ロンドンフル00531 444 179 西海)
ニューヨーク	ドル円は、動意薄の中強弱入り混じる経済指標に「レンジ内で方向感なく推移」。110.10レベルでNYオープンとなると、朝方発表された米12月住宅着工件数が市場予想を大きく上回ったことから、米金利が上昇し、ドル円は、日中高値110.21まで連れ高。その後、米12月鉱工業生産指数並びに米1月シガ大学消費者マインド指数が市場予想対比で弱含む結果となったことから、米金利が上昇幅を縮小すると、ドル円も日中安値110.05まで下落。指標発表後は、手掛り材料難の中、引き続き最高値を更新する主要株価指数に連れて、110.15近辺まで水準を戻し、そのまま110.15レベルでクロス。ユーロは、「小幅レンジ推移」。軟調な英12月小売売上高を受けたポンド売りに、ユーロも連れ安となった後、1.1110でNYオープンすると、ユーロは手掛り材料難となる中、堅調な米株式市場の動きにドル買いが優勢となるのを横目に、日中安値1.1086まで下落。その後は週末を前に1.1090近辺での取引が続く、そのまま1.1090レベルでクロス。米12月住宅着工件数は、平年より気温が暖かかったことなどの一時的要因により着工が急増した可能性があるが、先行指標となる許可件数が持ち直しており、引き続きドル円のサポート要因となる見込み。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】ドル円は当面底堅い値動きか。。。。

先週15日に紆余曲折はあったものの米中貿易協議が第一弾の合意に到達した。昨年12月の英国総選挙では与党保守党が圧勝し、合意なき離脱への懸念が和らいだことに加え、年初、米国によるイラン革命防衛隊司令官の殺害により高まった米国とイランの間の武力衝突懸念も回避される中、今回の米中間の第一弾の合意をもって、一旦は市場参加者が懸念していた大粒のイベントを、最良とは言わずとも想定範囲内でこなしただけの安心感から、米株相場は史上最高値を更新し、ドル円も110円台前半まで円安が進行する展開となっている。ここ10年のドル円相場を見てみると、1月は円高になることが多い月ではあるが、こうしたことを受け、今年は目立った悪材料がない中、底堅い展開となると考えている。ただし、足許の為替相場をドル円以外の主要通貨も含めて見てみると、ドル自体は対主要通貨では上昇しておらず、円が大きく売られているためにドル円が上昇する構図となっている。ドル円がここから大きく上昇するためには、円安基調は維持しつつ、ドル高に傾く必要があるが、米国の政策金利は年内は据え置きが見込まれ、米金利上昇が頭打ちとなる一方、欧州においては、政治、経済双方に懸念材料が多々存在するものの、景気の先行きに底打ちの兆しも見え始めており、大きくドル高に傾く手がかりに乏しい状況となっており、当面は、円安中心の既存の構図が継続し、ドル円はこれまで同様の緩やかなペースでの上昇を維持するものと予想している。ただし、年初のイラン革命防衛隊司令官殺害のような、突発的なリスク回避事象が発生した際は、急速な円高となる可能性が極めて高く、こうした不測の事態に備えて、ヘッジの手は緩めずにおきたい。(光石)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:光石・木村 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル

ブル	ベア
14	6